令　和　7　年　度
宮崎国際大学　国際教養学部
総合型選抜（第２回）

試　験　問　題
【小　論　文】

受　験　番　号
氏　名

国際教養学部　小論文

問題

次の文章は、研究者として日本で長く生活をしているマリ共和国出身のウスビ・サコさんが、日本人の生活習慣や行動のあり方について述べたものです。日本の「空気を読む」ということに対するサコさんの意見を要約するとともに、それに対するあなたの考えを６００字以内で述べなさい。

どの地域や社会にも、共同体の構成員が共有する一定の決められたルール、慣習やしきたり、つまり「生活のコード」があります。共同体の中で円滑に生活しようと思うならば、それらの共同体のコードを身につける必要があります。

特に、言葉を介さずに交わされる非言語的なコミュニケーションや、相手に期待する反応を求めることなどが挙げられ、これらのコードの活用こそが、いわゆる「空気を読む」ことと言われています。コードの活用には、感覚的に「その集団の決まりごと」を読み取る努力が必要となります。

私自身も、様々な集団と接する中で、常にその集団の独特な生活習慣を理解する努力をしてきました。私は世界中を旅し、いくつかの国や民族の言葉を話すことができますが、日本ほど生活習慣の理解に苦労した国や文化はありません。

日本の社会や文化圏の外で生まれ育った私のような人間にとって、日本の「空気を読む」ことは、非常に難しいことでした。例えば、日本の家を訪ねるとき、家の中へ誘われる言葉として、「上がってください」と言われ、さらにドアが外側へと開きます。これは、何か上方向に移動するのではなく、「入ってください」ということなのだと分かります。また、京都の「町屋」のような伝統的な日本家屋に行くと、一定の空間（土間）までは靴のままで入ることができ、ある境界を超えたときに靴を脱ぐことが許されます。このような経験は日本に来てから無数にありました。日本の生活文化や家屋の構成がわかる人には、「上がって」と言われることや、靴を脱ぐべき境界の認識に対して違和感はないはずです。

このような経験を重ねながら日本で長く生活をしていると、「空気を読む」ことはより複雑で奥深い意味を持つことが少しずつ見えてきます。「空気を読む」ことは言語的な体験だけではなく、日本で生活する人々の行動パターンを理解し、表現することなのです。それゆえ、「空気を読む」ことを理解するためには、かなり高度な日本社会や文化への理解が必要になると思います。

一方で、「空気を読む」、「相手にはっきり意見を言わない」、「否定的な意思を見せない」など、日本では協調性と考えられている行動様式には、今でもときどき疑問を覚えてしまいます。日本に住んでいる多くの外国人はこれらのコードをシェアしていないと考えられるため、多様性が重んじられるこの時代においては、同調的に他者と合わせることを強制し、同化させるのは難しいでしょう。これからの日本社会は、多様性の中で、いかに相手の立場

に立って物事を考えるか、いかにその違いを認めるのか、時には配慮することが重要になってくると思います。

（ウスビ・サコ「ニッポンの空気と空間利用」による・一部省略がある）